

# 5年3組 算数科学習指導案

場 所 5年3組教室(南舎4階)  
授業者 二村 真弓

## 1 単元名 「小数のわり算」

### 2 (1) 単元について

本単元のねらいは、「除法の意味の拡張や除数が小数の場合の除法の計算原理や筆算形式を理解すること」である。そして、このねらいを達成するために、本単元で大切にしたい数学的な考えは、次のことである。

(整数)÷(小数)や(小数)÷(小数)の計算は、小数を整数に置き換えて、既習の計算に帰着させて考えていけばよい。

児童は、これまでに、整数の乗法・除法および、小数の乗法を学習している。また、(小数)÷(整数)も、(整数)÷(整数)の計算と同じように、簡単な数に置き換えて計算すればよいことを学習してきた。

単元前半の授業では、大切にしたい数学的な考え方を引き出すとともに、(整数)÷(小数)の計算では、わる数に着目し、小数を何倍かして整数に置き換えれば、(整数)÷(整数)となり、どんな(整数)÷(小数)の計算もできることに気付かせていきたい。

そのために、数直線を基にした考え方と式を基にした考え方をつないで、ともに小数を整数と考えていることに気付かせ、その考え方に着目することの大切さを実感させられるような全体交流を組織する。

単元後半の授業では、(整数)÷(小数)、(小数)÷(小数)の計算の仕方を一般化したことや、これまで学習してきたことを活用して解決してきたことのよさを十分に味わわせたい。

そのために、学習内容をもとに、(小数)÷(小数)の商と被除数の大小関係を調べたり、わり進みのあるわり算を解いたりする活動を位置付ける。そして、学んだことを確かに使うことができ、生かしていけそうだと数理的な考察・処理によさを実感させていきたい。

### (2) 本時について

本時は、式と数直線を用いて計算方法の考え方を結び付けながら、(整数)÷(純小数)の意味や計算の仕方を正しく理解して、計算することができるようにする授業である。

「見付ける」過程では、問題場面をとらえて数直線を使って数量関係を整理し立式する。そして、前時と同じところ、違うところから「前時までと同様のわり算になるが、わる数が1より小さい小数の(整数)÷(小数)はどのように計算すればよいのか」という児童の課題意識を生み出すとともに、前時までの学習との共通点から、本時もわる数の小数を整数化して考えていけばよさそうだと見通しをもたせ、課題につなげる。

「考える」過程では、式と数直線を用いて、わる数の小数を整数化すれば計算できることを見付ける。そして、わる数を整数化するために、わられる数も何倍すればよいかを考えていく。全体交流では、式と、筆算を用いて計算する方法を取り上げながら考えを深め、「わる数を整数化して計算すればよい」ことに気付かせたい。

「磨き合う」過程では、筆算の計算方法に着目させ、既習の筆算方法が、本時の場合にも用いることができることを学習する。

「振り返る」過程では、筆算を用いた計算の習熟を図るために、練習問題に取り組む。

## 3 研究テーマに関わって

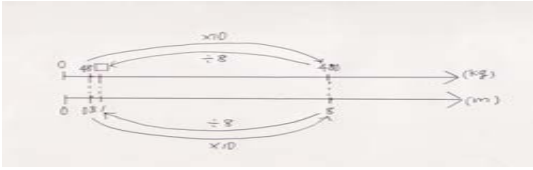
研究主題 自ら学ぶ力を育てる算数・数学教育のあり方  
子どもの思考力・表現力を高める指導のあり方

子供たちが課題解決に向けて個人追究する際には、その時間までの既習事項が思考の礎となる。そのため、提示された問題から、これまでの学習と「同じこと」「違うこと」を見つける活動を位置付けることで、「同じこと」＝「既習事項」と「違うこと」＝「本時の課題」を明らかにすることができる。そして、既習内容の考え方をういて課題解決できるのではないかという見通しをもつことが、自ら学ぼうとする姿勢へつながると考える。また、自分の考えを整理し、表現することができるように、式や数直線をかいて順序良く説明したり、それぞれの考え方をつなげて話したりするような指導を継続して行ったりする。

#### 4 本時のねらい

式や数直線を使って、整数÷純小数の計算方法を考える活動を通して、わる数が1より小さい数の計算でも、小数を整数化して計算すればよいことに気づき、筆算を使って正しく計算することができる。

#### 5 本時の学習展開 (4 / 14)

過程	学 習 活 動	指導・援助				
見 付 け る	<p><b>1 問題場面を理解し、既習内容との比較から、本時の課題をもつ。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     リボン 0.8m の代金が 48 円でした。 このリボン 1m のねだんはいくらでしょう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・式は <math>48 \div 0.8</math> になって、整数÷小数の計算で求められる。</li> <li>・前時は(整数)÷(1より大きい小数)だったけれど、本時は(整数)÷(1より大きい小数)だな。</li> <li>・前時はかける数を整数にして計算する方法で、小数を整数にして計算すればよかったな。この方法が使えるかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習したわり算の方法と同じ考えをもとに個人追究できるように、既習内容を掲示する。自分の考え方がすぐにもてない児童には、既習事項の掲示から前時を想起して考えることを助言する。(思考力)</li> </ul>				
考 え る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     (整数) ÷ (1より小さい小数) の筆算の仕方を考えよう。                 </div> <p><b>2 課題解決に向けて、式や図を使って個人追究する。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     (ア) 式 <math>48 \div 0.8 = (48 \times 10) \div (0.8 \times 10)</math>  <math>= 480 \div 8</math>  <math>= 6</math> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     (イ) 数直線                      </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     わる数が1より小さい数のときも、1より大きい小数の計算と同じように計算することができるかな。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考え方がまとまった児童には、他の場合でも同じことがいえるかを問いかけ、「一般性」の視点で考えることで、自分の考え方をより確かなものにできるようにする。(判断力)</li> </ul>				
磨 き 合 う	<p><b>3 全体交流をし、よりよい考え方を追究する。</b></p> <p>(ア) わる数の 0.8 を整数にするために、わられる数の 48 とわる数の 0.8 の両方ともを <u>10 倍して <math>480 \div 8</math> にします</u>。計算すると商は 8 になります。</p> <p>(イ) わる数の 0.8 を整数にするために、わられる数の 48 とわる数の 0.8 の両方ともを 10 倍して、480 と 48 にします。8m を 8 でわると 1m になります。同じように、480 を 8 でわると 1m のねだんを求められます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【(ア) (イ) に共通する考え方】                      かける数を整数にして計算するために、わる数とわられる数をそれぞれ 10 倍して計算する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考え方を相手に伝えるように説明することができるように式と筆算の仕方をつなげて考えることを助言する。(表現力)</li> <li>・2つの考え方に共通することは何かを問いかけ、明らかにすることで、まとめへとつなげる。</li> </ul>				
振 り 返 る	<p><b>5 本時のまとめをする。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     (整数) ÷ (1より小さい小数) の計算も、わる数を整数にして計算すればよい。                 </div> <p><b>筆算の方法を知る。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     わる数の小数点を右に移して、整数にする。                      わられる数の小数点も、わる数の小数と同じけた数だけ右に移す。                      わる数が整数のときと同じように計算し、商の小数点は、わられる数の右に移した小数点にそろえてうつ。                 </div> <p><b>6 練習問題に取り組む。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(1) <math>1.7 \div 3.4 =</math></td> <td style="width: 50%;">(2) <math>42 \div 1.5 =</math></td> </tr> <tr> <td>(3) <math>84 \div 3.5 =</math></td> <td>(4) <math>52 \div 0.4 =</math></td> </tr> </table> </div>	(1) $1.7 \div 3.4 =$	(2) $42 \div 1.5 =$	(3) $84 \div 3.5 =$	(4) $52 \div 0.4 =$	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に学習した、わる数が1より大きい小数の場合も同じ筆算の計算方法でよいことを確認し、(整数) ÷ (小数) の筆算の計算方法としてまとめる。</li> </ul> <p><b>評価規準 (技能)</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     (整数) ÷ (小数) の計算は、わる数を整数にして、(整数) ÷ (整数) の計算で求めることができることを理解し、筆算で計算することができる。                 </div>
(1) $1.7 \div 3.4 =$	(2) $42 \div 1.5 =$					
(3) $84 \div 3.5 =$	(4) $52 \div 0.4 =$					



## 1 単元目標

・除法の意味を拡張し、除数が小数の場合でも除法が用いられることを理解し、小数の除法の意味や計算のしかた、きまりを考えることができる。

## 2 本単元に関わる既習内容と本単元の評価規準

【本単元までに身に付けてきた学習内容】

- ・(小数) ÷ (整数) も (整数) ÷ (整数) の計算と同じようにして、簡単な数に置き換えて計算していけばよいことが分かる。
- ・(小数) ÷ (整数) について筆算を用いて計算することができる。

【本単元の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) の計算に興味をもち、進んで追究しようとしている。	(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) の計算を、(整数) ÷ (整数) の計算に帰着させて捉えている。	(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) を筆算で計算できる。小数のわり算のあまりの処理ができる。	(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) の計算原理を理解している。小数のわり算の筆算において、小数点の移動の仕方を理解している。

## 3 単元の見通し

時	1・2	3	4 (本時)	5	6	7	8	9	10	11
ねらい	除数が帯小数の場合でも除法の式で表すことができることを知り、計算のしかたを考える活動を通して、整数に帰着すればよいことに気づき、数直線や式を用いて計算することができる。	(整数) ÷ (1より大きい小数) の筆算の計算原理を理解し、筆算で正しく計算することができる。	わる数が純小数の場合でも、(整数) ÷ (小数) の計算が成り立つことを理解し、筆算で正しく計算することができる。	小数を整数化して、(小数) ÷ (小数) の計算方法が分かり、正しく計算することができる。	小数(小数第2位) ÷ (小数) の筆算の計算原理を理解し、筆算で計算することができる。	(小数) ÷ (小数) の場合、商と被除数との大小関係をまとめることができる。	わり進みのあるわり算の計算原理を理解し、筆算で計算することができる。	(小数) ÷ (小数) の場合のあまりのあるわり算の筆算をするときの、あまりの処理の仕方が分かり、正しく求めることができる。	(小数) ÷ (小数) で商を四捨五入で処理する仕方を理解し、正しく計算することができる。	何倍かを表す数が小数で表されていても、何倍かにあたる大きさを求めるには、かけ算が使えることを理解し、積を求めることができる。
課題	(整数) ÷ (小数) の答えの見つけ方を考えよう。	(整数) ÷ (1より大きい少数) の計算のしかたを説明しよう。	(整数) ÷ (1より小さい小数) の計算の仕方を考えよう。	(小数) ÷ (小数) の答えの見つけ方を考えよう。	小数(小数第2位) ÷ (小数) の答えの見つけ方を考えよう。	(小数) ÷ (小数) のときの商の大きさの秘密を見つけよう。	(小数) ÷ (小数) のときの、わり進みのある筆算の仕方を知ろう。	(小数) ÷ (小数) で、あまりのある計算の仕方を考えよう。	小数のわり算で、商を四捨五入して1/10の位まで求めるときは、求め方を考えよう。	小数倍にあたる量の答えの求め方を考えよう。
まとめ	(整数) ÷ (小数) の答えの見つけ方には、整数にもどして計算すればいい。	(整数) ÷ (1より大きい小数) を計算するには、わられる数とわる数を10倍にして、整数にもどして計算すればいい。	(整数) ÷ (1より小さい小数) の計算も、整数にもどして計算すればいい。	(小数) ÷ (小数) の答えを見つめるには、わられる数とわる数の両方を10倍して整数に直してから計算すればいい。	小数(小数第2位) ÷ (小数) の答えを見つめるには、わられる数を整数にするために10倍や100倍にして計算すればいい。	わる数>1のときは、商<わられる数 わる数<1のときは、商>わられる数	(小数) ÷ (小数) のとき、わり進んで計算をすればいい。	小数のわり算では、あまりの小数点は、わられる数のもとの小数点にそろえてうてばいい。	小数のわり算で、商を四捨五入して1/10の位まで求めるときは1/100の位を四捨五入すればいい。	何倍かを表す数が小数で表されていても、何倍かにあたる大きさを求めるにはかけ算を使って、積を求めればいい。

## 1 単元目標

・除法の意味を拡張し、除数が小数の場合でも除法が用いられることを理解し、小数の除法の意味や計算のしかた、きまりを考えることができる。

## 2 本単元に関わる既習内容と本単元の評価規準

【本単元までに身に付けてきた学習内容】

- ・(小数) ÷ (整数) も (整数) ÷ (整数) の計算と同じようにして、簡単な数に置き換えて計算していけばよいことが分かる。
- ・(小数) ÷ (整数) について筆算を用いて計算することができる。

【本単元の評価規準】

算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) の計算に興味をもち、進んで追究しようとしている。	(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) の計算を、(整数) ÷ (整数) の計算に帰着させて捉えている。	(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) を筆算で計算できる。小数のわり算のあまりの処理ができる。	(整数) ÷ (小数) や (小数) ÷ (小数) の計算原理を理解している。小数のわり算の筆算において、小数点の移動の仕方を理解している。

## 3 単元の見通し

時	1 2	1 3	1 4
ねらい	1とみる大きさが小数で表されていても何倍かになっているか求めるには、わり算が使えることを理解し、正しく計算することができる。	1にあたる量、何倍、何倍かした量といった数量の関係を理解し、小数倍になっている量を求めることができる。	練習問題を通して、習熟を図るとともに、事後の評価を行う。
課題	1にあたる量が小数のとき、何倍かを求める方法を考えよう。	1にあたる量の求め方を考えよう。	
まとめ	1とみる大きさが小数で表されていても、何倍かになっているか求めるには、わり算を使えばよい。	1とみる大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表したり、数直線を用いたりして考えればよい。	

4 学習内容

【第1・2時】(整数) ÷ (小数) の計算

ねらい 除数が帯小数の場合でも除法の式で表すことができることを知り、計算のしかたを考える活動を通して、整数に帰着すればよいことに気付き、数直線や式を用いて計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>リボン 2.4 m の代金は 96 円です。このリボン 1 m のねだんはいくらでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何算になるのかな。</li> <li>・式は数直線から</li> </ul> <p>0 □ 96</p> <p>0 1 2 2.4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・96 ÷ 2.4</li> </ul> <p>(整数) ÷ (小数) の答えの見つけ方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・0.1 m の代金から</li> </ul> <p>96 ÷ 2.4 = 96 ÷ 24 × 10</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24 m の代金から</li> </ul> <p>96 ÷ 2.4 = 96 × 10 ÷ 24</p> <p>0 □ 96 96 × 10</p> <p>0 1 2.4 24</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>1.2 m の代金が 60 円でした。このリボン 1 m の代金は？</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(整数) ÷ (小数) の答えを見つけるには、整数の計算にもどして計算すればよい。</p>	<p>・数直線から、比の考えを使って、×○÷△をして答えを見つけよう。</p> <p>評価規準 【数学的な考え方】 (整数) ÷ (小数) のわり算を整数に帰着して考えられている。</p>

【第3時】(整数) ÷ (小数) の計算

ねらい (2けたの整数) ÷ (2位数の小数) の筆算の計算原理を理解し、正しく筆算で計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>0.8 m のねだんが 48 円のリボンがあります。1 m の代金はいくらでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・式は数直線から</li> </ul> <p>0 48 □</p> <p>0 0.8 1</p> <p>48 ÷ 0.8 だ。</p> <p>T: リボンの長さが 1 より小さい小数で表されていても、その 1 m の代金の求めるにはわり算を使います。</p> <p>(整数) ÷ (1 より小さい小数) の答えの見つけ方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ</p> <p>0 48 □ 48 × 10</p> <p>0 0.8 1 8</p> <p>48 ÷ 0.8 = (48 × 10) ÷ (0.8 × 10) = 480 ÷ 8 = 60 答え 60 円</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>9 ÷ 0.2</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(整数) × (1 より小さい小数) の計算も、整数の計算にもどして計算すればよい。</p>	<p>・わり算は、わられる数とわる数を同じ数でかけても商は変わらない。</p> <p>評価規準 【技能】 (小数) ÷ (1 より小さい小数) のわり算を正しく計算している。</p>

【第4時】(整数) ÷ (純小数) の筆算

ねらい わる数が純小数の場合でも、÷小数の計算が成り立つとともに正しく計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>3.2 m の鉄の棒の重さが 16 kg でした。この鉄の棒 1 m 重さは何 kg でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2けたの整数) ÷ (2位数の小数) だから、どうやって計算すればいいのかな。</li> </ul> <p>(2けたの整数) ÷ (2位数の小数) の計算の仕方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算して</li> </ul> <p>16 ÷ 3.2 = (16 × 10) ÷ (3.2 × 10) = 160 ÷ 32 = 5 5 kg</p> <p>3 考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆算でできないのかな。</li> </ul> <p>T: 16 ÷ 3.2 の筆算を次のように行う。</p> <p>3.2) 16 3.2) 16.0 3.2) 16.0</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>78 ÷ 0.3</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(2けたの整数) ÷ (2位数の小数) を計算するには、わられる数とわる数を 10 倍にして、整数にもどして計算すればよい。</p>	<p>・整数の計算にするためには、どうすればいいかな。</p> <p>評価規準 【技能】 (整数) ÷ (小数) の筆算が正しくできている。</p>

#### 4 学習内容

##### 【第5時】(小数) ÷ (小数) の計算

ねらい 小数を整数化して、(小数) ÷ (小数) の計算方法が分かり、正しく計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>1.2 mの鉄パイプの重さが8.4kg この鉄パイプ1 mの重さは？</p> <p>・数直線からも 0 □ 8.4</p> <p>(円) (m)</p> <p>0 1 1.2 2</p> <p>(小数) ÷ (小数) の答えの見つけ方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ。 8.4 ÷ 1.2 = (8.4 × 10) ÷ (1.2 × 10) = 84 ÷ 12 = 7 7 kg</p> <p>3 考えを交流する。 ・筆算でできないのかな。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>9.6 ÷ 3.2を筆算で求めよう。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>(小数) ÷ (小数) の答えを見つけるには、わられる数とわる数の両方を10倍して整数に直してから計算すればよい。</p>	<p>・問題文を数直線に表し、立式の根拠となるように指導</p> <p>・整数に置き換える方法を考えよう。</p> <p>評価規準【技能】</p> <p>(小数) ÷ (小数) の計算が正しく筆算できる。</p>

##### 【第6時】小数の筆算

ねらい 小数(小数第2位) ÷ (小数) の筆算の計算原理を理解し、筆算で計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>4.32 ÷ 1.8 の計算の仕方を考えよう。</p> <p>・小数第2位の小数のわり算だ。 ・どうやって筆算をやるのかな。</p> <p>小数(小数第2位) ÷ (小数) の答えの見つけ方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ。 4.32 ÷ 1.8 = (4.32 × 10) (1.8 × 10) = 43.2 ÷ 18 = 2.4</p> <p>3 筆算の仕方を知る。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>9.664 ÷ 6.04</p> <p>① わる数の小数点を右に移して、整数にする。</p> <p>② わられる数の小数点も、わる数の小数点と同じ桁数だけ右に移す。</p> <p>③ わる数が整数のときと同じように計算し、商の小数点は、わられる数の右に移した小数点にそろえてうつ。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>小数(小数第2位) ÷ (小数) の答えを見つけるには、わる数を整数にするために10倍や100倍にして計算すればよい。</p>	<p>・小数点は、どのように移動していますか。</p> <p>評価規準【技能】</p> <p>(小数) ÷ (小数) の筆算を小数点をうつ桁数に気をつけて、正しく計算している。</p>

##### 【第7時】商の大きさ

ねらい (小数) ÷ (小数) の場合の、商と被除数との大小関係をまとめることができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>1.2 mの重さが7.2gの針金と 0.8 mの重さが7.2gの針金の、 それぞれ1 mの重さを7.2gと比べよう。</p> <p>・小数 ÷ 小数の商の大きさはどう変わるのだろうか。</p> <p>(小数) ÷ (小数) のときの、商の大きさのひみつを見つけよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ。 ・まず、商を求める。 1.2 mの重さ 7.2 ÷ 12 = 6 0.8 mの重さ 7.2 ÷ 0.8 = 9</p> <p>・次に商の大きさを比べて 1.2 mの重さが7.2gの針金 6 g &lt; 7.2 g 0.8 mの重さが7.2gの針金 9 g &gt; 7.2 g</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>① 2.8 ÷ 1.4 □ 2.8 ② 5.4 ÷ 0.9 □ 5.4</p> <p>・商の大きさのひみつがわかったから、計算をしなくてもできるぞ。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>わる数 &gt; 1 のときは、商 &lt; わられる数 わる数 &lt; 1 のときは、商 &gt; わられる数</p>	<p>・整数の計算にするためには、どうすればいいかな。</p> <p>評価規準【知識理解】</p> <p>わる数が1より大きいときと小さいときのわられる数と商との関係を理解している。</p>

4 学習内容

【第8時】わり進みのある計算

ねらい わり進みのあるわり算の計算原理を理解し、筆算で計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>右の長方形の横の長さを求めよう。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">1.5 cm</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <math>6.3c \text{ m}^2</math> □ cm         </div> </div> <p>・長方形の面積を求める公式から考えていけそうだ。 ・式は、<math>6.3 \div 1.5</math></p> $\begin{array}{r} 4 \\ 1.5 \overline{) 6.3} \\ \underline{60} \\ 3 \end{array}$ <p>・わり進んでいけばよさそうだ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             (小数)÷(小数)のときの、わり進みのある筆算の仕方を知ろう。         </div> <p>2 わり進みのある計算の仕方を知る。</p> $\begin{array}{r} 4 \\ 1.5 \overline{) 6.3} \\ \underline{60} \\ 30 \\ \underline{30} \\ 0 \end{array}$ <p>T:商に小数点をうち、0 を付け加えて筆算の続きをおこなう。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             ① <math>12 \div 7.5</math>   ② <math>4.2 \div 5.6</math> </div> <p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             (小数)÷(小数)のとき、わり進んで計算をすればよい。         </div>	<p>・問題文を数直線に表し、立式の根拠となるように指導する。</p> <p>・実際に計算をしてみよう。</p> <p>評価規準【技能】 (小数)×(小数)のわり進みの計算ができてきている。</p>

【第9時】あまりのあるわり算

ねらい (小数)÷(小数)の場合のあまりのあるわり算の筆算をするときの、あまりの処理の仕方が分かり、正しく求めることができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>6.3 mのひもを1.5 mずつ切つてアクセサリを作ります。何本取れて、何m余るでしょう。</p> <p>・(小数)÷(小数)であまりのあるときはどうやって計算するのか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             (小数)÷(小数)で、あまりのある計算の仕方を考えよう。         </div> <p>2 自分の考えをもつ</p> <p>・図を使って分けてみると</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px;"></div> </div> <p>1.5 m 1.5 m 1.5m 1.5m 0.3 m 4本取れて0.3 mあまる。</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>・筆算で計算するとどうなるの? T:筆算では次のように計算します。</p> $\begin{array}{r} 4 \\ 1.5 \overline{) 6.3} \\ \underline{60} \\ 0.3 \end{array}$ <p>4 問題2を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>1.5 \times \square + \square = \square \text{ (m)}</math> </div> <p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             小数のわり算では、あまりの小数点は、わられる数もとの小数点にそろえてうてばよい。         </div>	<p>・図に書いて考えてみよう。</p> <p>評価規準【技能】 (小数)÷(小数)のあまりの処理の仕方がわかり、筆算で正しく計算している。</p>

【第10時】商を四捨五入で処理する

ねらい (小数)÷(小数)で商を四捨五入で処理する仕方を理解し、正しく計算することができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>面積が20 m<sup>2</sup>の花壇 横の長さを4.8 m にしたら、□cm <math>20 \text{ m}^2</math> 縦の長さは4.8 m 何mにすればいいでしょう。 商を四捨五入して1/10の位まで求めましょう。</p> <p>・式は <math>20 \div 4.8</math> ・四捨五入して1/10の位まで求めるには、どこえを四捨五入すればいいのだろう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             (小数)÷(小数)で、あまりのある計算の仕方を考えよう。         </div> <p>2 自分の考えをもつ。</p> <p>△ 1/10の位で   ○ 1/100の位で</p> $\begin{array}{r} 4 \\ 4.8 \overline{) 20} \\ \underline{192} \\ 80 \\ \underline{48} \\ 32 \end{array}$ $\begin{array}{r} 2 \\ 4.8 \overline{) 200} \\ \underline{192} \\ 80 \\ \underline{48} \\ 320 \\ \underline{288} \end{array}$ <p>1/10で四捨五入すると商が1の位になってしまう。</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>・1/10の位までということは、その前の1/100の位で四捨五入すればいいぞ。</p> <p>4 問題2を提示する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>1.2 \div 0.7</math>を四捨五入して1/10の位まで求めよう。         </div> <p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             小数のわり算で、商を四捨五入して1/10の位まで求めるときは1/100の位を四捨五入すればよい。         </div>	<p>・位に気をつけて計算してみよう。</p> <p>評価規準【技能】 (小数)÷(小数)で1/10の位までの商になるように1/100の位で四捨五入して処理している。</p>



【第11時】小数倍とかけ算

ね 何倍かを表す数が小数で表されていても、何倍から  
ら にあたる大きさを求めるには、かけ算が使えることを  
い 理解し、積を求めることができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>赤いテープの長さは、2.5 mで緑のテープの長さは赤いテープの長さの2.4倍です。また、ピンクのテープの長さは、赤いテープの0.6倍です。緑とピンクの長さは、それぞれ何mでしょう。</p> <p>・小数倍でもかけ算が使えるぞ。</p> <p><math>\times 2.4</math></p> <p>0 2.5 (m) 0 1 2.4 (倍)</p> <p><math>\times 2.4</math></p> <p>小数倍にあたる量の答えの求め方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ。</p> <p>・緑のテープは数直線から <math>2.5 \times 2.4 = 6</math> 6 m</p> <p>T:何倍かを表す数が小数で表されていても、何倍かにあたる大きさを求めるにはかけ算が使えます。</p> <p>・ピンクテープは数直線から <math>\times 0.6</math></p> <p>0 (m) 0 0.6 1 (倍)</p> <p><math>\times 0.6</math></p> <p><math>2.5 \times 0.6 = 1.5</math> 1.5 m</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>横の長さがたての長さの1.5倍の長方形の形をした花壇を作ります。たてを3mにすると横は何mでしょう。また花壇の面積は何㎡でしょう。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>何倍かを表す数が小数で表されていても、何倍かにあたる大きさを求めるにはかけ算を使って、積を求めればよい。</p>	<p>・数直線に表し比の考え方を使得何算か考えよう。</p> <p>評価規準 【知識理解】 何倍かを表す数が小数で表されていても、何倍かにあたる大きさを求めるにはかけ算が使えることを理解している。</p>

【第12時】小数倍とわり算

ね 1とみる大きさが小数で表されていても何倍になっているかを  
ら 求めるには、わり算が使えることを理解し、正しく計算する  
い ことができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>右のような4本のテープがあります。白、青、黄のテープの長さは、それぞれ赤いテープの何倍でしょう。</p> <p>白・・・5 m 青・・・3.5 m 赤・・・2.5 m 黄・・・2 m</p> <p>・赤いテープがもとにあたる量だ。 ・数直線に表して何算か考えよう。</p> <p>1にあたる量が小数のとき、何倍かを求める方法を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ</p> <p>・数直線を使って数量関係をはっきりさせよう。</p> <p>0 2 2.5 3.5 5 (m) 0 (倍)</p> <p>白 <math>5 \div 2.5 = 2</math> 2倍 青 <math>3.5 \div 2.5 = 1.4</math> 1.4倍 黄 <math>2 \div 2.5 = 0.8</math> 0.8倍</p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>T: 1とみる大きさが小数で表されていても、何倍になっているかを求めるには、わり算が使えます。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>赤いテープに長さ2.5 mを1とみたとき、青と黄のテープの長さは、赤いテープの長さのどれだけにあたるでしょう。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>1とみる大きさが小数で表されていても、何倍になっているかを求めるには、わり算を使えばよい。</p>	<p>・数直線から式を考えよう。</p> <p>評価規準 【知識理解】 1とみる大きさが小数で表されていても、何倍かを求めるには、わり算を使えばよいことを理解している。</p>

【第13時】1にあたる量

ね 1にあたる量、何倍、何倍かした量といった数量の  
ら 関係を理解して、小数倍になっている量を求めるこ  
い ができる。

学習活動	指導・援助・評価
<p>1 確かな課題をもつ。</p> <p>けんじさんの家から駅までの道のりは、2.8kmです。これは、家からバス停までの道のりの3.5倍です。家からバス停までの道のりは何kmでしょう。</p> <p>・何算になるのか、数量関係を数直線に書いてみよう。</p> <p>バス停まで 駅まで</p> <p>0 (m) 0 1 3.5 (倍)</p> <p>・1にあたる量を求めればよい。</p> <p>1にあたる量の求め方を考えよう。</p> <p>2 自分の考えをもつ。</p> <p>ア) □を使って <math>\square \times 3.5 = 2.8</math> <math>\square = 2.8 \div 3.5</math> <math>\square = 0.8</math></p> <p>イ) 数直線から <math>\div 3.5</math></p> <p>0 (m) 0 1 3.5 (倍)</p> <p><math>\div 3.5</math></p> <p><math>2.8 \div 3.5 = 0.8</math></p> <p>3 考えを交流する。</p> <p>4 有効性を判断し一般化するために問題に取り組む。</p> <p>ある日のスーパーの買い物客の数は、468人です。これは、前日の12倍です。前日の客の数は何人でしょう。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>1とみる大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表したり、数直線を使ったりして考えればよい。</p>	<p>・数直線から式を考えよう。</p> <p>評価規準 【知識理解】 1とみる大きさを求めるときは、□を使ってかけ算の式に表したり、数直線を使ったりして考えればよいことを理解している。</p>

【第14時】習熟と事後評価

ねらい	練習問題を通して、習熟を図るとともに、事後評価を行う。
-----	-----------------------------

学 習 活 動	指導・援助・評価
◇練習問題に取り組む。 ◇事後評価を行うとともに、単元について振り返りをする。	